

年所新しい西尾創生への一歩 西尾青議 今後のまちづくりを考える

西尾の今後のまちづくりについて考える一般社団法人西尾青年会議所(河合恒一理事長)の「西尾創生会議」が26日、西尾市文化会館小ホールであった。

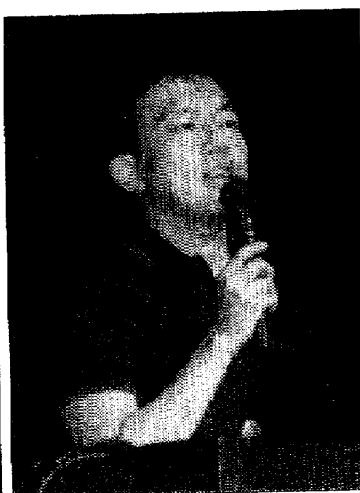


あいさつする河合理事長

よ。」があった。

創生のあり方を考える機会づくりで西尾創生委員会(石川裕高委員長)が企画。開会のあいさつに立つた河合理事長は、人口減少社会に突入していく中、明るく未来の創生に向けた共通認識を持つための一助として「これから新しい西尾につながる一歩にしたい」と開催旨を説明した。

第1部は内閣官房地域活性化伝道師で(一社)エリア・イノベーション・アライアンス代表理事、木下斎さんによる講演「まちづくりはまず自分から。人口減少社会を稼ぐまちで変革せ



講演する木下さん

高校時代に早稲田商店会の活性化プロジェクトに携わって以来、全国の様々なまちづくりに関わってきた木下さんは、投資回収を見据えた運営開発で、経済活動の芽つた事業の管理運営の重要性をあげた。これに歳入のピークにあわせて整備を進めてきた行政の問題点も指摘しながら「悪くなることもなくなるのではなく、リターンを含めたコスト競争力を持たなければならぬ」と強調した。

全国的官民複合施設などの成功と失敗の各事例を解説しながら、整備前に目的を明確化した事業展開の大切さを求め、「過云の成功ケースはあくまで参考で、地域地域でやり方はまったく違う。行政と民間がともに考えていかねればならぬ」と説明。その上で、時代のトレンドを先読みし、今後の社会変化への対応に向けて、「公共財産も活用して、公民連携事業による稼

ぎインフラづくり、さらに地方が自ら考える力づくりが、今後のまちづくりには必要」と呼びかけた。

第2部はパネリストとして、講演した木下さんとともに中村健市長、幡豆地域をハズフォルニアとして新たな生活スタイルを発信する民泊コテージを営む鈴木達朗さんが登場。コーディネーターをキャンチネットワークの小林奈々恵さんが務め、今後の地域活性化などについて意見を交わした。



中村市長らと交えたパネルディスカッション

域特性、生活環境が違ふ中雇用環境とともに子育てがしやすい環境づくりの重要性などを強調。歴史やグルメなどの観光資源を活かした誘客には文化と観光の連携をあげ、「多くの人に伝えるための発信に力を入れたい」と述べた。

ものづくりや農業などの様々なポテンシャルを秘めた西尾の価値の再発見が、今後につながるべくと中小企業は、規制緩和などによる民間の力の活用もあげた。これからのまちづくりについては、今あるものを改めて活かしながら「身の丈の中で、次の時代を見越しながら行っていくことが大切」とアドバイスした。